

話^わつ^っ花^か（六）

鳥井まみ

ひまわり

生きるため食べなきゃー
食べるため動かなきゃー
これが植物になると
太陽光線で栄養を作っているし
動かない
「私の頭は
太陽を追ってまわるのよ」
太陽を追ってまわるのよ」
自慢するヒマワリのお隣りには
ユリが負けじとグングン伸びて
三つの蕾が開花しだした
「一番咲きのユリさんが
「ヒマワリさん
蕾のころは太陽を追って
首をまわしてたけど：
」

二番咲きのユリさんが
「あーあ頭デッカチになって
こっち向いたまま」
三番咲きのユリさんが
「ヒマワリさん丸まっ
柄付きモップで支えましょか」
だと
お口が達人なユリ
何の職業に向いているのかな
振込みサギの指示はできて
受け取り役は：
根がはえてるから：



有利にもっていくには

知らない人と
初めてお話するときには
ニコニコとばかりでは
いけない場合だってあるし
スポーツでも
柔道のようには双方が
「これから：：」
「始まり：：」
顔の筋肉がひきしまつて
表情もついで
「野獣みたいね」となる
気合いの入った顔で
ロンドン五輪でただ一人
柔道で金メダル
「それだけに背中
「ゴールドゼッケン」が
重荷に感じられ
戦いにくい面も
まわりの雑音を断ち切って
自信を取り戻すことで

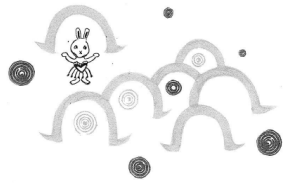
世界選手権で勝てたと松本さん
「こわづら」も「優おもて」も
使って
「初恋レビュー」のときも
表情を百装備して
出会ったらどうかしら



サイシヨはこちら

長崎 青森 島根のほか
 広まっつていったのは
 相撲取りが気に入った唄い手を
 巡業につれて歩いてきたから
 そんな「磯節」唄いついでいく
 磯の香を色男が唄い子ことば
 「サイシヨネ」の囃子ことば
 から始まつてみたさには：
 ♪ あいたさみたさには：
 ♪ ひと足違いでいま船は出たところ
 ♪ これ「サイシヨネ」の隠岐磯節
 ♪ サイシヨネ「隠岐磯節」
 ♪ 咲いてからまる藤の花
 ♪ 夜は丸山抱いとくれ
 ♪ 又シの浮気のコマを
 ♪ とどめる手綱がほしい
 ♪ これ長崎の五島磯節
 ♪ 青森の南部磯節は
 ♪ 青森の南部磯節は
 ♪ 県内の風景を酒盛り唄にして

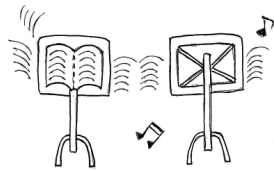
本家の茨城では
 昭和になつてから
 「これじゃどこか違えなきゃ」
 となつてサイシヨネと
 「ハア」サイシヨネと
 「ハア」サイシヨネと
 差別化したそうなの



バッハでも憧れが

ベートーベン
 ブラームは
 バッハと三人は
 「三大B」などと呼ばれて
 他にそうとうたる面々がレパートリーを
 生み出していた1730年ごろ
 「イタリア芸術」に憧れて
 「イタリアを吸収して料理してみよう」
 ドイツはまだまだ後進国
 ドイツ生まれのバッハは
 バッとしない20代は
 「イタリア風に1発かましてやる」
 「そこで思いついたのが
 「一人でオケストラのような
 演奏できないか」
 鍵盤が二段並んでいる楽器
 「チェンバロ」これでやってみよう
 オリエンタル曲を作った
 チェンバロで披露したら

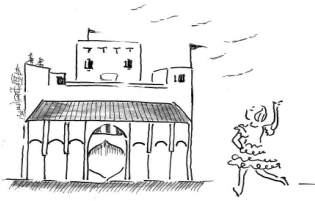
「オツヤッホーホー」
 舞台は声援がうずまいて
 舞台は声援がうずまいて
 時を経て当曲の協奏曲は
 ピアノ練習曲のレパートリーとなつて
 親しまれていきます



チャレンジして

あの日から輝きだした
カラフルに輝きだした
「アルハンプラ宮殿の思い出」
ギターの名曲が流れる
スペインのグラナダ
坂道にそって白壁が明るい
お父さんが我が家の壁の
塗り替えをやっている
「塗り直しにならぬように」
「キレイに塗ってみせる！」
「お酒のんではダメ」
仕上げて踊るから
夫婦して通りに面した壁の新装
どこからか音色が聞こえてきて
ギターの音色が聞こえてきて
少女のこのドレス
「フリルだらけね」
「目覚めると毎日踊っているわ」
「えっ生まれる前から」
「フラメンコは子守歌」

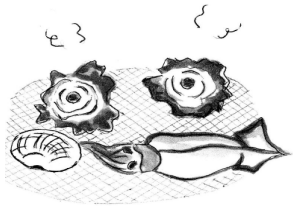
誰に習って
母はフラメンコ
父はギター弾き
「アルハンブラ宮殿」をバックに
踊って見せているから
「ミニ宮殿でいいから」
いつか輝きたい！



気配が知らせて

遊び道具にしようと
サザエの小さなフタを
ひろって集めていたころ
ふと見上げたとき
赤く染まる雲に
海辺の松林の方へ
「おかしいな戦争の体験
初めての怖い戦争の体験
こんな田舎にまで来るはずがない
そんな安心も
泡となつた現実があちこちから
「サザエの殻を叩いといて」
母の言いつけで
細かく砕いてニワトリの
餌にまぜこんで与えていた
その二ワトリが「と聞く
「卵の数が減つた」と聞く
「菜っ葉をもつと食わせてやっ
毎日外に出して畑の土にも
ふれさせていたが

なぜ？
「どうも飛行機の爆音やらで
神経質になつてる」
「戦後七十年あまり
「安保」が爆音まじり
かゆい！！



かけ声があると

「イチニッ！」
「ジャンプ！」
ひと声あげると
体が宙に浮きやすくなる
なぜかは解からないが
人間ばかりか
鳥でも例えられている
「困ったナ！」
虹を越えて跳んでみよと
虹を越えて困っているのは
言われて困っていた
トンビでした
高い所から
「ぴい」
「跳べそうか」
「ぴい」
「跳べそうか」
「跳べそうか」
「跳べそうか」
「跳んだ！ひよろ」
虹を越えて
いきまいた
飲めない私に

「ぐいっ」と
「旨いっか」
「ぐいっ」と
「美味しいか」
「ぐいっ」と
「わるくないですな」

